

第16回 東日本大震災子ども支援意見交換会

—震災から丸6年、子ども・若者たちと考える被災地の復興—

2017年3月10日（金）11時～13時
衆議院第2議員会館1F-多目的会議室

東日本大震災から7年目を迎えようとしています。中学2年生で被災した子どもたちが、今年の「成人の日」の主人公になりました。彼ら/彼女らは被災直後、中学3年生の時期に義務教育の中で被災体験を共有し、その体験の意味を学校で考えたり、支援を受けたりしてきました。そうした意味で彼らが20歳になったこの時期をとらえて、もう一度子ども期に提供された支援内容について、質や量や方法を検討する必要があると思います。

私たちは震災後の子ども若者の話を聴き続ける中で、被災の記憶が薄れていく岩手・宮城、そして今も厳しい原発事故後の暮らしを送っている福島の子どもの若者たちの被災体験をきちんと踏まえ、今こそ当事者たちの参加が保障された『東日本大震災子ども・若者白書』がつくられなければならない時期であると考えているに至っています。

震災から6年を経た今、支援を受けてきた若者たちが語る震災時とその後の子ども・若者支援の価値と課題はどのようなものでしょうか。6年間の継続的な支援の中で高校生や大学生となった彼らは、被災当時や復興期のことなどについて語ることによって考え、生まれ育った地域のために、様々な取り組みを始めています。

震災を経験した高校生・大学生の話を聴いて、震災時から現在に至るまでの思いに心を寄せながら、彼らと一緒に、これからの子ども支援のあり方について、東日本大震災から7年目を迎える日に考えたいと思います。どうぞ、ご参加ください。

プログラム

1 7年目の子ども支援に求められる視点と課題

森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学）

2 20歳になった被災地の若者たちが

取り組もうとしていること

南三陸町等で被災した子どもたち project M

3 高校生が今被災地の復興にできること

山田町ゾンタハウスZOO café ※応援している大学生

4 被災地における子ども・若者支援活動

—南相馬復興大学と若者活動が目指していること

花岡 高行（南相馬市企画課復興推進係）

5 被災した若者、支援者からの発言

6 関係省庁からの報告とコメント

復興庁 厚生労働省

文部科学省 内閣府

7 意見交換

司会進行：森田明美

（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学）

荒牧重人

（東日本大震災子ども支援ネットワーク運営委員 山梨学院大学）